



地域全体で支えあう 包括的支援体制 のススメ

後編

10月の収穫祭のようすをお届けします！



行政職員による「段ボールコンポストづくり」講座に、子どもたちは興味津々♪



ボランティアがイベントに参加した子どもたちと、芋ほりをするようす



当日のようすを動画でも紹介！▶

地域共生社会の実現に向け市町村が取り組んでいる「包括的支援体制」について、秋号から2号にわたりお送りしています。後編でご紹介するのは大東市社協と交野市社協です。活動の担い手にも着目してください。

●大東市社協

空き家活用事業「RiBON」

大東市社協以下、社協では、住民の孤独・孤立防止や居場所づくり、参加支援をめざし、今年4月に空き家活用事業「RiBON」(以下、RiBON)を開始。背景には、年齢や所属を問わず多様な人が集うことができる仕組みを緩やかに構築し、「地域共生社会」を実現したいという社協職員の思いがありました。

RiBONの拠点となる場所もともと空き家でした。行政の広報紙や社協のSNSなどで周知し集まったボランティアや地元大学の協力のもと、

1年かけて改装し完成しました。

平日は、地域住民が自由に集うことができる居場所として開放。3か月に1回ほどのペースで季節のイベントを実施しています。また月に1回、社協への寄付や寄贈を活用しフードバンク活動をしています。

秋の収穫祭イベントには行政職員が講師として参加。福祉委員や民生委員・児童委員は掲示板へのチラシ掲載やイベントの呼びかけなどに協力しています。地域住民や関係団体はRiBONを支える大きな力になっており、連携を図りながら活動を進めています。



社協職員の皆さんとボラーナ(社協マスコットキャラクター)

新たなつながりに期待

社協ではこれまで、小地域ネットワークづくりに力を入れて取り組み、福祉委員や民生委員・児童委員を中心につなぐりを深めてきました。一方で子育て世帯や若年層は、社協を知るきっかけがないという課題がありました。そこでInstagramで目を引

地域住民が中心となった居場所に

「RiBONを地域全体で育てていきたい」と話すのは社協職員の藤井美貴さん。現在は、社協が日頃の運営やイベントの企画を担い、ボランティアがそれを支えています。今後は参加支援を目的に地域住民が中心となるこ

「また参加したい！」の声を受け、連絡会を通じて日頃からつながりがある施設と社協、CSW等が意見を出しあい、より地域のことを知ってもらえる工夫を重ねました。

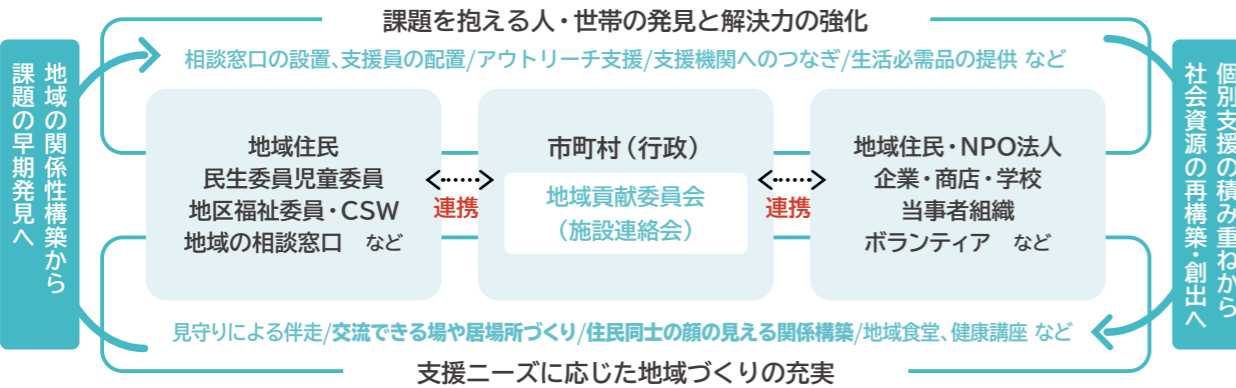
つながりを生む場所に

今年度は参加対象を、小中学生のみから、未就学児にまで拡大。親子での参加が増え、親世代が施設や市内のことを知る機会にもなりました。また、施設

「つながりを生む場所にしていく」と話すまなごは未来を見つめています。

～多様な担い手の参画による相乗効果と「大阪モデル」～

今回紹介した2市ともに、活動にあたり多様な担い手の参画を得ることで、相談支援の強化と地域づくりの充実の相乗効果を生んでいます。なお、社会福祉法人の地域貢献活動が活発な大阪の特徴を生かすため、地域貢献委員会(施設連絡会)と協働した活動を「大阪モデル」と名づけ、とくに推奨しています。



交野市社協(以下、社協)では、昨年度より「きみのしらないかたのザ★クイズラリー」を実施しています。参加者が交野市社会福祉施設地域貢献連絡会(以下、連絡会)に加入している社会福祉施設(以下、施設)を回りクイズに回答。楽しく施設や市内のことを知ってもらうことが目的です。

クイズラリーで地域を知る

●交野市社協

大東市社協
Instagramはこちら!



施設探検ツアーのようす

秋号から、府内4市の事例を通して「包括的支援体制」の具体的な取り組みを紹介しました。「大阪モデル」による地域共生社会の実現と、それを通じた地域福祉の一層の推進をめざします。

2022年度秋号でも
イベントを紹介。
記事はこちら!

